
盾としての運命を背負った御遣い～予告編～

S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

盾としての運命を背負った御遣い〜予告編〜

【Nコード】

N1431V

【作者名】

S

【あらすじ】

この小説は不定期で更新する予定の小説の予告編です。不定期更新なのでどうなるか分かりませんが頑張ります。書きたかったから書きます。

いつから書き始めるのか分かりません。

ですが、絶対に書きます。

この小説もよろしく願います。

（前書き）

こんにちわ

いやゝ何だか新しいアイデアが浮かびましてゝ

更新不定期かもしれませんがよろしく願いします
ではゝ

この外史は本当に異形。

何故ならその外史では孫策、劉備、曹操
その三人が反董卓連合の後に三国同盟を
結んだからである。

その同盟疎ましく思った袁紹、袁術は
その同盟を潰そうとしたが三国の同盟により
一か月と持たずに三国に投降。

その世界には天の御遣いは居なかった。
占い師である管輅はある予言をした。

『東方の天より流星が降る。』

その流星は『盾』の運命を背負った者を
乗せた流星。その者の名は北郷一刀。

その者はいかなる者からもこの国……いや
この大陸を守るだろう。その者に委ねるが良い
汝等の運命を……彼はその期待に必ず答えるであらう』

その時北郷一刀は自分が守る者に膝を付いていた。

「姫、お呼びですか？」

姫、そう呼ばれる者が一刀が守る者。

「はい、あなたに任務を与えます」

「はい？」

「今からとある世界に飛んでもらいます」

「は？」

「では、行つてらっしゃい」

「え！ちよ！」

「あ、そうだ！あつちで簡単に人の名前を簡単に呼んではいけませんよ？首を刎ねられますから」

「笑顔で言ってますけど言ってること怖いですよー！」

「これはあつちでの生活に必要な物です」

「多っ！って、わー！ー！」

「一刀、お氣をつけて……」

北郷一刀は守るべき者を守れるのか！

何故この平和な世界で『盾』である彼が送られなければならないのか！

彼の戦いが今は始まる！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1431v/>

盾としての運命を背負った御遣い～予告編～

2011年10月9日05時11分発行